

## ボツワナ共和国月報(2023年8月)

### 主な出来事

#### 【内政】

- 2023/2024年度補正予算成立-電力事情改善に16億プラ-
- ボツワナ国内での対中好感度、アメリカを上回る
- 内閣改造の可能性
- エルニーニョ現象の発生見通し

#### 【外政】

- ボツワナ政府、ニジェールにおけるクーデターを非難
- ウクライナ、ボツワナに対ロシア支援を要請(外相電話会議)
- マシシ大統領他、SADC首脳会合に出席
- ツォフワネ副大統領、BRICS首脳会合に出席
- カーマ前大統領、国費にてイタリアを訪問
- 第73回世界保健機関(WHO)アフリカ地域委員会の年次会合開催

#### 【SADC関連】

- 第43回SADC首脳会合の開催
- SADC選挙監視団、ジンバブエ大統領選挙を批判

#### 【経済】

- インド企業による石炭火力発電所建設
- ボツワナ・南ア間鉄道建設
- ボツワナ銀行金融政策会合-政策金利2.65%据置き-
- 7月インフレ率-2020年9月以来の低水準-
- 情報通信統計(2023年第1四半期)
- 政府債務残高

#### 【当館関連イベント】

- ボツワナ見本市での日本文化紹介イベントの実施

#### 【内政】

- 2023/2024年度補正予算成立-電力事情改善に16億プラ-

18日、国民議会は、鉱物エネルギー省から提出のあった国内電力事情改善関連補正予算16億プラを承認した。

- ボツワナ国内での対中好感度、アメリカを上回る

アフロバロメーター社の発表によると、ボツワナにおける中国の政治・経済的影響力を肯定的に捉えている人の割合は30%で、アメリカ(25%)、EU(22%)、日本(18%)についての回答を上回った。一方で、上記国々の影響力を「知らない」(didn't know)と回答した人は全回答者の過半数に上った。本調査は、2022年7月～8月に1,200人のボツ

ワナ成人を対象に実施された。

#### ○内閣改造の可能性

与党筋によると、大統領による業績評価に基づいた内閣改造(大臣・副大臣の異動)が近く行われる可能性がある。保健省、農業省、外務省、貿易・産業省が改造の対象と噂されており、特に保健省は2019年に初の大臣ポストとして保健大臣に任命されたクワペ現外務大臣が、再度保健大臣に任命される可能性がある。報道によると、大統領はBDP予備選挙において勝利すると予想される有力な副大臣は内閣に残す方針とみられる。

#### ○エルニーニョ現象の発生見通し

29日、ボツワナ気象庁は、季節別(2023年10～12月、2024年1～3月期)降水量と気温の見通しを公表し、本年12月から翌年3月にかけて、南半球では95%の確率でエルニーニョ現象が発生することが見込まれ、ボツワナも、各地で乾燥と高温に見舞われ、干ばつが発生する可能性があるとして、注意喚起を行った。

#### 【外政】

#### ○ボツワナ政府、ニジェールにおけるクーデターを非難

ボツワナ政府は、ニジェールにおけるクーデターを非難する声明を発表し、憲法に則り選出されたモハメド・バズーム・ニジェール大統領の即時釈放を求めた。同政府は、ボツワナの立場はマラボ宣言やAUの定める「テロリズムと違憲の政権交代に関する決定」に沿ったものであると述べた。

#### ○ウクライナ、ボツワナに対ロシア支援を要請(外相電話会議)

クワペ外務大臣は、ウクライナのドミトロ・クレーバ外務大臣と電話会談を行い、ロシア侵攻に対する支援の要請を受けるとともに、ボツワナにおけるウクライナの公館設置等両国関係の強化や国際機関を通じた協力について協議した。クワペ外務大臣は、ボツワナは国連加盟国であり、国連憲章の全ての条項、特に領土一体性と主権の尊重を一貫して支持していると述べた。

#### ○マシシ大統領他、SADC首脳会合に出席

17日、マシシ大統領は、クワペ外務大臣、セラメ財務大臣、ムシ国防大臣、カフェラ貿易・産業大臣と共に、アンゴラで開催されたSADC首脳会合に出席した。なお、同首脳会合には、SADC創始者を称えるメダルを亡き父に代わって受領するためカーマ前大統領も出席し、同前大統領が南アフリカに亡命して以来のマシシ大統領との公の場で対面・握手することとなった。

○ ツォフワネ副大統領、BRICS首脳会合に出席

24日、ツォフワネ副大統領は南アフリカで開催されたBRICS首脳会合に出席した。カーマ前大統領も関連イベントに出席した。また、ボツワナは、ボツワナ投資貿易センターと在南アフリカ・ボツワナ高等弁務団を通じてBRICSビジネスエキスポにも出展した。

○ カーマ前大統領、国費にてイタリアを訪問

6日～13日、南アフリカに亡命中のカーマ前大統領は、国費にてイタリアを訪問し、Konrad Adenauer Stiftung財団及びBrenthurst財団主催の「不安定な世界で平和を勝ち取るには」と題する会議に出席した。なお、大統領法(年金及び退職手当法)に基づき、カーマ前大統領は年4回までの国費海外旅行が認められている。

○ 第73回世界保健機関(WHO)アフリカ地域委員会の年次会合開催

28日、ハボローネ市内にて第73回WHOアフリカ地域委員会年次会合が開催され、アフリカ各国から保健大臣、政府高官、関係機関関係者が集まり、保健分野の様々な課題についての協議が行われた。開会式にてマシシ大統領は、すべての人に健康と福祉を掲げるSDG3(ゴール3)を達成するために、サブサハラ・アフリカ諸国では、同地域のGDPの7.5%または一人当たり271ドルが年間ベースで保健分野に必要であるものの、依然として不足している状況について述べた。

【SADC関連】

○ 第43回SADC首脳会合の開催

17日、第43回SADC首脳会合がアンゴラにて開催された。同首脳会合は、モザンビークにおけるSAMIMの任務をさらに12カ月延長するとともに、コンゴ民主共和国へのSADCミッション(SAMIDRC)の派遣を承認した。

○ SADC選挙監視団、ジンバブエ大統領選挙を批判

25日、SADC選挙監視団は、23日～24日にかけて行われたジンバブエ国政選挙の監視結果をまとめた仮報告書を発表し、同選挙は概ね平和裏に行われたものの、ジンバブエ憲法やSADCの原則の要件を満たしていないと批判した。同様の懸念は、AU-COMESAやEU選挙監視団等からも提起された。26日、SADC事務局は、(ジンバブエ側の反発を受け)同報告書を擁護する声明を発表するとともに、監視団及び団長(ムンバ元ザンビア副大統領)を批判する公の発言に懸念を表明した。さらに、監視団による主張を評価するため、事実確認ミッションとしてSADC長老パネルをジンバブエに派遣した。

## 【経済】

### ○インド企業による石炭火力発電所建設

インド企業ジンダル・エナジー社は300メガワットの石炭火力発電所を建設し、同社の所有するマムブラ炭鉱から石炭を供給する。また同社はボツワナ電力公社(BPC)に30年間電力を供給する電力販売契約を締結した。

### ○ボツワナ・南ア間鉄道建設

ボツワナ鉄道と南ア・トランスネット社は、首都ハボローネより北130キロメートルに位置するマムブラと南ア・リンポポ県レファラレ間を結ぶ鉄道建設のため、市場より30億プラの資金調達を進める。この113キロメートルの路線は、ボツワナ国内で産出される石炭を南アフリカ及びモザンビーク経由で海外輸出するためのルートとなる。

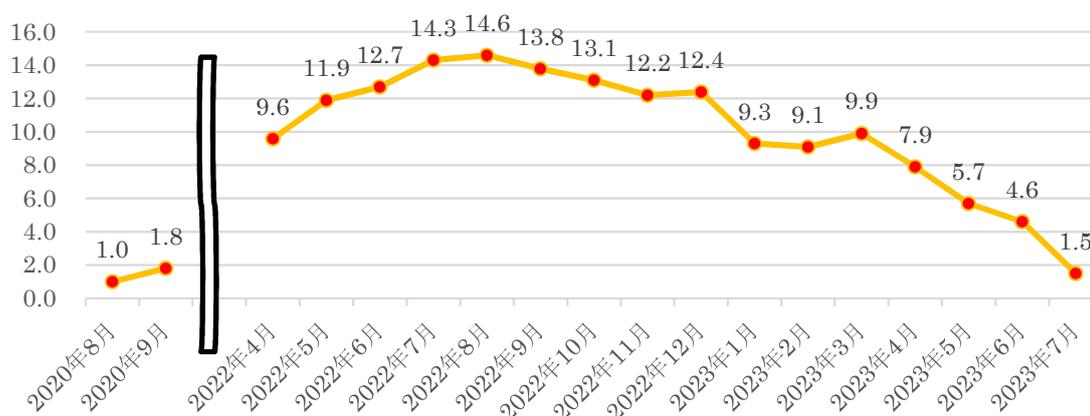
### ○ボツワナ銀行金融政策会合-政策金利2.65%据置き-

24日、ボツワナ銀行は、今年4回目の金融政策会合を開催し、政策金利(MoPR)を2.65%と据え置いた。今年7月時点でのインフレは1.5%(年率換算)と、同行の中長期インフレ目標(3~6%)を下回ったものの、将来的な国際商品価格の高騰(インフレ要因)や弱い内需(デフレ要因)を勘案し、前回に引き続き、金利は現状維持となった。

### ○7月インフレ率-2020年9月以来の低水準-

7月の年間インフレ率は1.5%で、前月の4.6%から3.1%下落した。分野別寄与度は、運輸(マイナス2.0%)、食品・非アルコール飲料(1.4%)、雑貨・サービス(0.8%)であった。1%台のインフレ率は2020年9月(1.8%)以来の低水準であり、ボツワナ銀行の中長期インフレ目標(3%~6%)を下回った。

図: インフレ率の推移



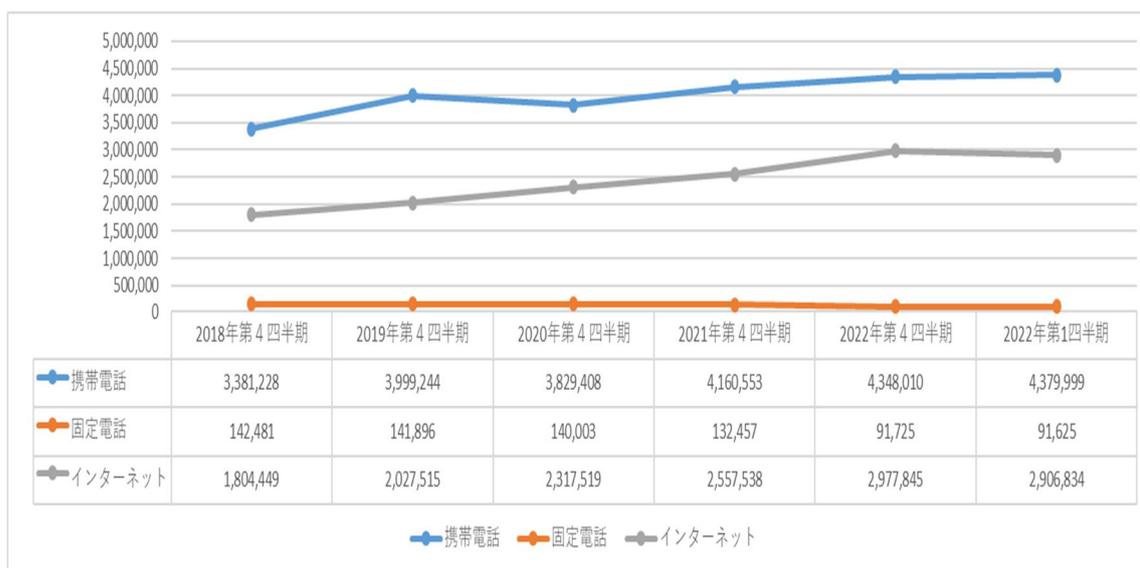
(統計局)

### ○情報通信統計(2023年第1四半期)

2023年第1四半期の固定電話回線契約数は、前期比で91,725件から91,625件へと

0.1%減少した。携帯電話の契約数については前期比の4,348,010件から4,379,999件へと0.7%の増加となった。他方、インターネットの総契約数(固定回線経由及びモバイル回線経由の合計)は、前期比で2.4%減少した。

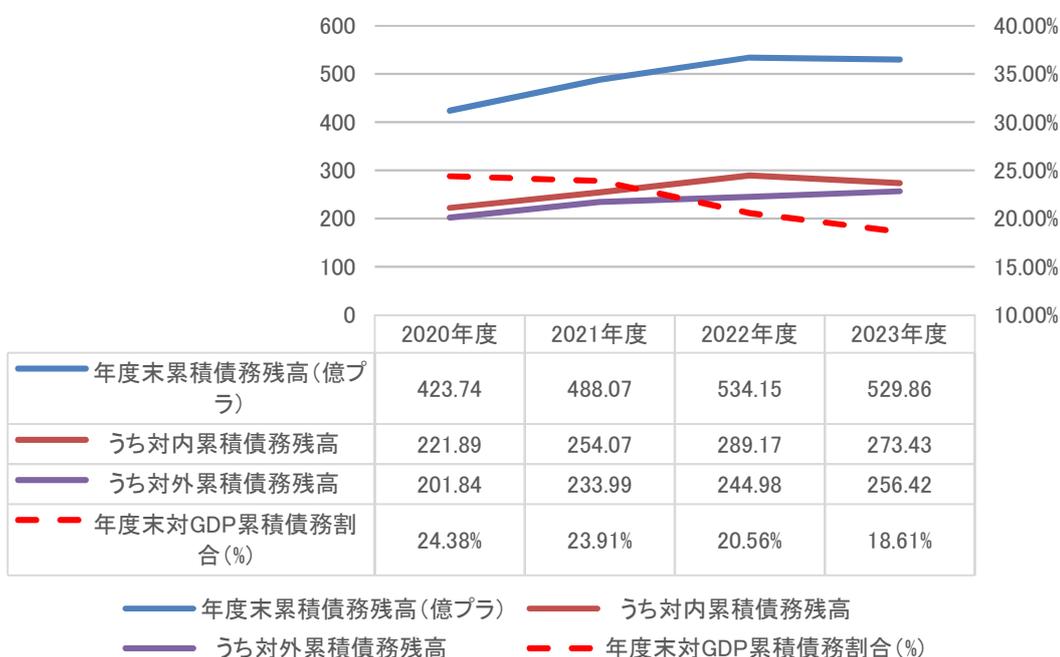
図：最近の通信サービス契約数推移



### ○ 政府債務残高

2023年第1四半期の累積債務残高は529.86億プラ(対内累積債務残高273.43億プラ、対外累積債務残高256.42億プラ)、GDP累積債務割合で18.61%(対内累積債務割合:9.60%、対外累積債務割合:9.01%)となった。国債発行や海外債務借入の増大に伴い累積債務残高は増加傾向にあるものの、GDP累積債務割合は法定限度(40%)を大幅に下回っている。

図：政府債務残高の推移



注)2023年度は第1四半期  
(財務省)

【当館関連イベント】

○ポツワナ見本市での日本文化紹介イベントの実施

28日～9月3日、ハボローネ市内にて当地最大規模のイベントであるポツワナ見本市が開催された。当館としてブースを出展し、日本文化(折り紙、書道、浴衣・法被試着体験等)及び当館事業(留学、奨学金、草の根・人間の安全保障無償資金協力等)を紹介した。国内外の民間企業、政府機関、NGO等が約570のブースを出展し、多数の政府関係者、一般市民が来場した。本年度はJICAポツワナ事務所も出展し、事業紹介、JOCV隊員の活動紹介等が行われた。

(了)